

臨床感染症学

【単位数：2単位，授業26コマ，予備2コマ（定期試験含まず）】

当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である。

1 科目責任者

笠井謙次 教授（医学部長）

2 教育目標

（1）ねらい（Ⅲ-3-b，Ⅲ-4-b，Ⅲ-5-b）

- ① コンピテンスの「医学知識と科学的探究心」を修得するために，感染症疾患の疫学，病態と症候を説明でき，その鑑別と治療を計画できる。
- ② 診断と治療に必要な病原微生物・感染臓器と治療薬の関係性を理解する。
- ③ これらの学習過程において，自ら学修目標を設定し，継続的に学び，その成果・知識を他者と共有することを通じて，「プロフェッショナリズム」の涵養を図る。

（2）学修目標

- ① 細菌感染症の成立にかかわる細菌側の要因と，宿主側の要因について理解する。
- ② 細菌感染症の診断について基本方針を理解する。
- ③ 細菌感染症の治療の原則を理解する。
- ④ 地域的及び世界的な感染症の流行状況を知り，感染症に対する対策と医師としての法的義務を身につける。
- ⑤ 薬剤耐性菌の出現を防止するために，薬剤耐性菌の出現様式を理解し，適切な抗菌薬選択ができる。
- ⑥ 創傷・術後感染症の危険因子を理解し，発症阻止のための対策がとれる。
- ⑦ 医療関連感染の発生防止と伝播防止ができるようになるために，医療関連感染を理解する。
- ⑧ 呼吸器感染症の臨床所見，検査所見を理解し，その診断と治療ができる。
- ⑨ 肺炎のなかで非定型肺炎の位置づけを理解するため，非定型肺炎の微生物学的特性を理解する。
- ⑩ 肺結核・非定型抗酸菌感染症の臨床所見，検査所見を理解し，その診断と治療ができる。
- ⑪ ウイルス感染症の診断・治療・予防を理解する。
- ⑫ 小児科学領域感染症の特徴を理解し，予防・診断・治療を概説できる。
- ⑬ 腸管感染症及び食中毒の診断と治療を理解する。
- ⑭ 肝・胆道系感染症の診断と治療を理解する。
- ⑮ 整形外科領域の感染症の診断と治療を理解する。
- ⑯ 性感染症の診断・治療を理解する。
- ⑰ HIV感染の病態を理解し，診断・治療・予防を説明できる。
- ⑱ 尿路感染症の特性を理解する。
- ⑲ 男性性器感染症の特性を理解し，男性性器感染症の診断と治療について説明できる。
- ⑳ 原虫感染症の診断と治療のために，微生物学的及び臨床的特徴を理解する。
- ㉑ 深在性真菌症の診断と治療のために，微生物学的及び臨床的特徴を理解する。
- ㉒ 血流感染及びセプシスの概念，診断（検査を含む）及び治療を理解する。
- ㉓ 産婦人科領域感染症及び母子感染の特徴を理解し，診断と治療を理解する。
- ㉔ 中枢神経感染症の特徴を理解し，診断及び治療を理解する。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	100%	定期試験の成績を基に下記の点を加味し評価する。
態度	○	—	態度不良の場合は、総合成績から10点を限度に減点をする。

出席： 定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

総合成績で60%未満の場合は、再試験を実施する。再試験は定期試験に準ずる方法で実施する(再試験においては再試験成績60%以上で合格と判定する)。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

試験問題に関する疑問は指定したオフィスアワーに受け付ける。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
感染症専門医第I部解説編テキスト	社団法人 日本感染症学会	南江堂	すべての疾患について詳細な記述がされている。
病気がみえる Vol.6 免疫・膠原病・感染症	医療情報 科学研究所 編	メディックメディア	国家試験対策として要点を理解するのに適している。

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
Clinical Infectious Diseases: A Practical Approach	Richard K., et al. Editors	Oxford University Press	米国における感染症学の代表的なテキストである。
Harrison's Principles of Internal Medicine	Kasper D, et al. Editors	McGraw-Hill	内科学のバイブルとしての評価が高い。

6 準備学習(予習・復習)

教科書として指定した書籍の講義内容に関係する部分を読んでくるのが望ましい(予習:1コマ 約0.5時間, 復習:1コマ 約1時間)。

7 授業計画

(1) 講義の方法

講義時に配付する資料に基づいて講義する形式をとる。一部の講義では、case-based learningの形式も採用する。一部、小グループ討論や講師との質疑応答などのアクティを導入する。

(2) 講義の内容

講義タイトルに示された疾患について、各種感染症の病態、診断、治療、予防法の基本を理解する。